

# 農地利用状況調査

## 村長・副村長もパトロール同行

### 千早赤阪村農委

千早赤阪村農業委員会（仲野清秀会長）は、昨年11月18日に水分地区の圃場整備実施エリアを重点に置き、農地パトロールを行った。この日の農地パトロールでは、会長、地区担当農業委員2人、事務局職員3人に加え、南本村長、稲山副村長も同行し、農業委員会と村共同で実施した。例年の農地パトロールは、農業委員会のみで実施するが、4月19日に農業委員会から村長に対し意見書を提出し、11月8日に村長と意見交換会を実施したことに伴い、農業委員会と村が

ワンチームとなって実施。遊休農地の課題に向き合うことが目的だ。

水分地区は、平成中期に圃場整備を実施したが、農業者の高齢化や担い手不足などにより圃場整備を実施したエリアでも遊休農地が点在している。

昨年度と比較し、遊休農地が解消されている農地もあつたが、長年、耕作が放棄され、草が生い茂っている農地も確認した。遊休農地は、イノシシにとつての格好の住処にもなり、周辺農地への被害が大きくなることも懸念される。

今後、所有者に農地利用



仲野会長(中央)から遊休農地の説明を受ける南本村長(左から2番目)と稲山副村長(左端)(千早赤阪村)

意向調査を行い、耕作ができない、他人に管理してほしいなどの意向があれば、農地中間管理事業を推奨し、村内の遊休農地の解消に努めていく。

(千早赤阪村農業委員会提供)

## 委員全員で農地パトロール

### 守口市農委

守口市農業委員会（西口誠一会長）は、昨年11月10日に「令和3年度農地重点パトロール」として農地パトロールを行った。各地区で担当委員によるパトロールが月1回行われているが、別に要領を定め、委員全員参加の下、毎年1回行われるもので、今年は大久保地区で行われた。守口市は市域全域が市街化区域で、雑草繁茂等の遊休化が進む前に転用される事案が多く、この農地重点パトロールは、各地区の委員に他の地区における農地の利活用状況を知ってもらう意味合いもある。

巡回した農地は、防災協力農

地に登録され、約10坪の農地に多品目の農産物が栽培されていた。その一角では、小学生の田植え体験や大根の種まき体験を行い、その収穫物を学校給食に利用するなど食育活動にも活用されている。

同市では、市内農家らで構成される任意団体「守口市農業研究会」が中心となり、農業体験など農業理解の醸成に取り組んでいる。市内農地はそのような活動の拠点として活用されることも多いという。

西口会長は、「都市部の農地の利活用には様々な取り組みが考えられる。少ない農地面積でも農地の高度な利用を図り、消費者に近い利点を生かした直売朝市の更なる活性化を目指したい」と話した。

(松宮)

## 長年の遊休農地も解消

### 河南町農委

河南町農業委員会（武田文夫会長）は、昨年11月2日から25日にかけて農地パトロールを実施。初日となる2日には武田会長を含む農業委員2人、推進委員1人と事務局2人で中地区、馬谷地区、芹生谷地区の農地パトロールを実施した。

こうした中で、遊休農地が解消された事例もあつた。長年遊休化していた農地について、地区担当委員が指導を重ねたところ、雑木林のように生い茂っていた草木が刈られていたという。この日は、昨年からの2筆の遊休農地の解消が確認された。所有者が遠方に住んでいる、相続

化が進んでいる状況。現世代から代替わりする際の遊休化が危惧されている。

に伴う所有者のトラブルなど遊休農地ごとに抱える課題は様々だが、今後も1筆ずつ対応を検討し解消を目指す。

武田会長は、「今回のパトロールの結果を踏まえ、農地所有者への耕作管理の指導や使用貸借の推進を徹底することで、遊休農地の解消や農地利用の最適化を目指すしていきたい」と話す。

(沼田)



遊休農地を確認する委員(河南町)



巡回農地には大根が植栽。児童らが収穫体験する予定だ(守口市)